大学院（博士前期課程）

ディプロマポリシー

・社会が抱える諸課題の中から建築に関わる事項を抽出し、隣接分野からの視点を含めて総合的に取り組むことで、社会の持続可能な発展に寄与する合理的な解決策を見いだすことができる。
・都市計画的な幅広い視点から、多様な建築を設計・施工・維持・管理する技術的能力を修得しており、それを実践で活かすことができる。
・建築倫理に関する知見や建築技術者としてのコミュニケーション能力を修得しており、グローバルに活動できる意欲や能力を身につけ実行できる。

M2 M1	配当単位数合計	13単位	7 単位
通年		●必修科目 不開講科目 グローバルテクノロジー特論a 1 グローバルテクノロジー特論b 1 ※ インターンシップ 2	● 建築・都市デザイン演習 2
後期		応用数学特論 2 材料・デバイス開発実務特論 3	● 文献調査II 1 建築職能論 1
前期		応用物理学特論 2 外国語特論 2	● 文献調査I 1 防災工学特論 2
分野		数理科目 学際科目 共通横断	専門横断

カリキュラムポリシー

・「専門」では、講義、演習、およびゼミ形式の授業によって高度で幅広い知識・技術を身につける。
・「専門横断」では、研究の基礎となる文献調査（必修）ならびに特色のある実践的な演習を通して研究にかかる基礎力を養うとともに、社会の要請に応える職能などに関する基礎知識を身につける。
・「共通横断」では、数理科目および学際科目を置き、専門教育・研究活動に必要な工学分野の知識と語学力を身につける。また、企業などでのインターンシップ等を行う実習形式の科目により実践的・実務的な知識と技術を修得する。

アドミッションポリシー

学部教育で培った人間性豊かなエンジニアとしての能力をさらに高め、最新の建築技術や知識を駆使して、また、都市デザイン工学の知識を加味することで、地震、台風、火災、環境汚染などの災害から人間を守り、安全・安心な社会、持続可能な社会、文化的で豊かな社会を実現することをめざす。その目的を達成するため、課題を主体的に発見・解決できる建築家、建築技術者、プランナー、デザイナーなどの高度なプロフェッショナルや研究者を養成する。

〈求める人物像〉
・建築学の高度な専門知識と技術を修得し、考究するのに必要な基礎的知識を有している人
・建築学に関する研究や開発を主導する高度な技術者や研究者をめざし、新たな知識や技術の創造に向けての思考力、洞察力、行動力を有している人
・技術者としての責任と自覚を持ち、高度な倫理観をそなえている人
・人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人

ディプロマポリシー

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。
＜工学部＞
1）実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】
2）人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】
3）専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に運用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術（詳細は学科DP）】
4）技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】
5）社会的課題の解決に向けて、他者と協働的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】
6）地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に貢献的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】【社会に対し貢献的に貢献する行動力】
◆注：(3)～(6)は明細化したものが、各学科のDPとなる
＜建築学科＞
建築学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を修得できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。
（A）人文社会科学や自然科学などの幅広い教養と英会話を含めたコミュニケーション能力を身につけ、それを建築のプロフェッショナルとして活かすことができる。【幅広い教養に基づいたコミュニケーション能力】
（B）建築学の各分野で修得した幅広い知識・技術をもとに、総合的な見地から、多様な建築を設計・施工・管理・維持する技術的能力を修得し、それを実務で活かすことができる。【専門基礎知識・技術の実践・応用力】
（C）建築学の各分野で修得した専門的な知識・技術をもとに、自発的に建築のさ学習を継続し、建築のプロフェッショナルとして自らを高めることができる。【自己啓発に努めた建築学習能力】
（D）自身のアイデアを文章や図面にまとめ、表現する能力を身につけ、他者に正確に伝えることができる。【確かなデザイン力に基づいたプレゼンテーション能力】
（E）社会が抱える諸課題の中から建築に関する事項を抽出し、他者と協力して社会の持続可能な発展に寄与する合理的な解決策を思いだすことができる。【協働的かつ主体的な課題発見・解決力】
（F）建築のプロフェッショナルとして使命感や倫理観を身につけ、社会的責任について考え、説明することができる。【技術者としての実践的倫理観】
◆注：【 】はディプロマ・サプリメンシャスポリシーにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示

分野別到達目標

配当単位数合計	–	–	–	–
分野別到達目標	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文学的教養にもとづく思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。	工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基本的知識を理解・応用し、自然現象との共生を念頭においた思考・判断ができるとともに、実践的に他者と協働するなかで専門分野における学修意欲を増進する。	数学や他の自然科学関連のより複合的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。

学部

配当単位数合計				
4 通年		哲学 (2) 倫理学 (2) 美術史 (2) 文学 (2) 日本語の歴史 (2) 法学（日本国憲法）(2) 経済学 (2) 歴史学 (2) 心理学 (2) 日本の伝統と文化 (2) 国際関係論 (2) 日本の文化と社会Ⅰ (2) 日本の文化と社会Ⅱ (2) オーラル・コミュニケーションⅡa (1) オーラル・コミュニケーションⅡb (1) 工学コミュニケーション英語基礎a (1) 工学コミュニケーション英語基礎b (1) キャリア・イングリッシュⅠa (1) キャリア・イングリッシュⅠb (1) キャリア・イングリッシュⅡa (1) キャリア・イングリッシュⅡb (1) 英語プレゼンテーションa (1) 英語プレゼンテーションb (1) 中国語コミュニケーション (1) 中国語と現代中国事情 (1) 生涯スポーツⅠ (1) 生涯スポーツⅡ (1) 世界と人間 (2) 文章表現基礎 (2) ベーシック・イングリッシュa (1) ベーシック・イングリッシュb (1) オーラル・コミュニケーションⅠa (1) オーラル・コミュニケーションⅠb (1) 海外語学研修 (2) 日本語Ⅰ (2) 日本語Ⅱ (2) 健康体育Ⅰ (1) 健康体育Ⅱ (1)	解析学Ⅲ (2) 解析学Ⅲ演習 (1) 線形代数学Ⅱ (2) 微分方程式Ⅰ (2) 微分方程式Ⅱ (2) 実践化学 (2) 物理学c (2) 物理学d (2) 知的財産法概論 (2) 確率と統計Ⅰ (2) 確率と統計Ⅱ (2) 宇宙・地球・生命－探究演習 (1) 解析学Ⅰ (2) 解析学Ⅰ演習 (1) 解析学Ⅱ (2) 解析学Ⅱ演習 (1) 線形代数学Ⅰ (2) 物理学a・b (各2) 物理学実験 (2) 化学 (2) 地球科学 (2) 生物科学 (2) 基礎情報処理Ⅰ・Ⅱ (各1) 3次元モデリング(2) 淀川学(1) デザイン探求演習 (1)	解析の世界 (2) 幾何の世界 (2) 代数の世界a (2) 代数の世界b (2) 複素解析Ⅰ (2) 複素解析Ⅱ (2) 応用数学Ⅰ (2) 応用数学Ⅱ (2) 実践化学 (2) 地球システムと人間 (2) 環境生物学 (2) 人間発達と人権 (2) 教育原論 (2)	キャリア形成支援（1） インターンシップ (2) キャリアデザイン (1) グローバルテクノロジー論a (1) グローバルテクノロジー論b (1) OIT概論 (1)
3 後期				
3 前期				
2 後期				
2 前期				
1 後期				
1 前期				
分野		キャリア形成の基礎	工学の基礎	数理科学と教育 / その他連携科目

カリキュラムポリシー

＜工学部カリキュラム・ポリシー＞
工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。
1）人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境典生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。
2）継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。
3）必修・選択（選択必修を含む）科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。
4）実験・実習・探求演習（Project Based Learning、PBL）の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。
5）技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命観ならびに倫理観を養う。
6）学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。
◆注：(3)～(6)は明細化したものが、各学科のCPとなる

アドミッションポリシー

建築学科は、人間が生活し、様々な活動を行うための「建物・まち」やその環境を社会のニーズに応えるように創造し、デザインする人材、すなわち、建築家、建築技術者、プランナー、デザイナーなどの建築のプロフェッショナルを養成します。

〈求める人物像〉
（1）自分の能力の向上に情熱と意欲を持って努力できる人
（2）人間の健康と幸福をめざして、幅広い分野の人々と協働して努力できる人
（3）技術分野に加えて、文化や芸術分野にも興味を持っている人
（4）快適・安全で美しい「建物・まち」づくりに関する能力を高め、社会や地域に貢献したいと思う人

M2 M1 建築学コース	配当単位数合計	29 単位		14 単位	6 単位	8 単位	37 単位			112 単位 ＜全科目＞
集中		建築インターンシップI（意匠系） 4 建築インターンシップII（意匠系）＜修了要件に含めない＞ 3 建築インターンシップIII（意匠系）＜修了要件に含めない＞ 2	建築設計実習I 4 建築設計実習II ＜修了要件に含めない＞ 3				建築構造実験 2 建築インターンシップIV（構造系） 4	建築構造解析演習 2 建築構造設計演習 2		＜専門分野＞
後期		建築設計演習IIa 1 建築設計演習IIb 1 建築設計演習III 1	建築論特論I 1 建築論特論II 1 建築工事監理実習 1	地区計画特論a 1 地区計画特論b 1 建築計画特論IIa 1 建築計画特論IIb 1	建築環境特論IIIa 1 建築環境特論IIIb 1		コンクリート構造特論b 1 コンクリート構造特論c 1	建築振動特論 2	構造計画特論 1 構造力学特論b 2	26 単位 19 単位
前期		建築設計演習Ia 1 建築設計演習Ib 1 建築史特論I 1 建築史特論II 1	建築設計マネジメント 1 建築設計特論a 1 建築設計特論b 1	建築計画特論Ia 1 建築計画特論Ib 1	建築環境特論Ia 1 建築環境特論Ib 1 建築環境特論IIa 1 建築環境特論IIb 1		建築材料特論a 1 建築材料特論b 1 木質構造特論a 1 木質構造特論b 1 コンクリート構造特論a 2	鋼構造特論b 1 鋼構造特論c 1 複合・合成構造特論b 1 複合・合成構造特論c 1 複合・合成構造特論a 2	耐震設計特論a 1 耐震設計特論b 1 空間構造特論 2	25 単位 12 単位 12 単位
M2 M1 都市デザイン工学コース 後期				空間デザイン学特論 2 社会資本計画学特論 2 都市・地域計画特論 2 空間情報学特論 2		海岸工学特論 2 土構造特論 2 河川工学特論 2 地盤工学特論 2	コンクリート工学特論 2 維持管理工学特論 2			70 単位 24 単位 112 単位
M2 M1 都市デザイン工学コース 前期										
分野		歴史・意匠		デザイン・計画	環境	河海・地盤	構造・材料			年間履修上限単位数なし

分野別到達目標

配当単位数合計	17 単位	28 単位	10 単位	20 単位	8 単位	20 単位	103 単位
分野別到達目標	各分野で得た知識や技術を統合して、総合的見地から建物を設計・建設する方法を身につけており、自らのアイデアを表現できる。	機能的で美しい建物や安全で快適な都市を計画・設計するために必要とする知識を身につけており、それに基づいて自らの考えを説明できる。	建物内の温度、湿度、空気質制御に加え、明るさ、音環境を良好に維持・管理するために、それらを解析し評価する能力を身につけており、建物の環境調整手法を活用した設計をすることができる。	建物の主要な構造形式の仕組みや力学的性質などに関する知識や解析能力を身につけており、構造物を安全に設計することができる。	建築材料の力学的・物理的性質、仕上げ材の種類と性質、建物の施工方法および積算に関する知識を身につけており、それを建物の設計・施工に活かすことができる。	低年次においては各分野における知識や技術を理解・修得するための素養を身につけ、高年次においては建築技術の社会との関わりや、建築に携わる者の責任や倫理について説明できる。	卒業に必要な単位数124単位

学部

配当単位数合計										
4 通年		卒業研究								–
4 後期		● 建築演習II 2	都市計画論I 1 都市計画論II 1	ランドスケープデザイン 1 意匠論 1					測量学I・同演習 1 測量学II・同演習 1 建築学アドバンスI 1 建築学アドバンスII 1 特別講義 1	0 単位 11 単位
4 前期								●：必修科目 ■：選択必修科目		11 単位
3 後期		● 建築演習I 2	■ 建築計画IV 1 ■ 建築計画V 1 ■ 地区設計論 1 ■ 地区計画論 1 ■ 建築史III 1 ■ 建築史IV 1	BIM演習I 1 BIM演習II 1 CGプレゼンテーション演習I 1 CGプレゼンテーション演習II 1	■ 建築設備IA 1 ■ 建築設備IIB 1	■ 鉄筋コンクリート構造II 1 ■ 鉄筋コンクリート構造III 1 ■ 建築基礎構造I 1 ■ 建築基礎構造II 1	建築振動論I 1 建築振動論II 1 ■ 構造計画I 1 構造計画II 1	■ 建築経済I 1 ■ 建築経済II 1		24 単位
3 前期		● 設計演習III 3	■ 建築計画III 2 ■ 建築史II 2	BIM・CAD演習 2	■ 建築環境工学III演習 2 ■ 建築設備I 2	■ 鋼構造II 2 ■ 鉄筋コンクリート構造I 2	構造力学アドバンスII 2	■ 建築施工 2		45 単位 21 単位
2 後期		● 設計演習II 3	■ 建築計画II 2 ■ 建築史I 2	■ 建築法規A 1 ■ 建築法規B 1	■ 建築環境工学II演習 2	■ 構造力学IV 1 ■ 鋼構造I 2	構造力学アドバンスI 1	■ 建築材料II 2	■ 木構造II 2	19 単位
2 前期		● 設計演習I 3	■ 建築計画I 2		■ 建築環境工学I演習 2	■ 構造力学III 2		■ 建築材料I 2	■ 木構造I 2 建築倫理 1	33 単位 14 単位
1 後期		● 構造力学II 2							■ 設計基礎演習II 2 ■ 建築構法 2	6 単位
1 前期		● 構造力学I 2							■ 設計基礎演習I 2 建築概論 2 絵画演習 2	8 単位 14 単位
分野		基幹	建築設計・計画	建築環境工学・設備	構造力学・建築一般構造		建築材料・生産		共通	年間履修上限単位数44単位

カリキュラムポリシー

基幹科目は、演習を中心とした科目を配して関連する諸分野の知識を統合し、創造的な空間の提案を行なう能力を培う。

建築設計・計画分野では、高度な専門知識の基盤を備えるための講義を配し、機能的で美しい建築を計画・設計するための幅広い基礎知識を身につけるとともに、演習科目により自分のアイデアを表現する能力・技術を養う。

建築環境工学・設備分野では、高度な専門知識の基盤を備えるための講義・演習の複合型科目を配し、良好な建築環境を創造・維持するための幅広い基礎知識や技術を身につける。

構造力学・建築一般構造分野では、高度な専門知識の基盤を備えるための講義や講義・演習の複合型科目を配し、安全な建築構造物を計画・設計するための幅広い基礎知識や技術を身につける。

建築材料・生産分野では、高度な専門知識の基盤を備えるための講義や講義・演習の複合型科目を配し、建築の材料や施工法に関する幅広い基礎知識や技術を身につける。

共通科目では、高度な専門知識の基盤を備えるための講義を中心として、建築に携わる者が共通して備えるべき幅広い知識や倫理観を身につける。